

科目No. 31 科目名 健康支援と社会保障制度 臨床心理学 時間割表記名 臨床心理学	配当時期 3年次前期 単位数 1単位 時間数 20時間(10回)	担当者 もりた ゆうき 森田 悠暉										
科目のねらい 臨床心理学を基にした人間理解と援助の基本を習得することを目指す。 ・援助関係技術(特にコミュニケーション技術)を体得する。 ・自己理解と他者理解との関連で、心理検査法の知識を得る。 ・心理療法から見たものの考え方を身につける。 ・人間観がさまざまなアプローチに与える影響について知る。	DPとの関連 <table border="1" data-bbox="1118 483 1441 678"> <tr> <td>人間理解</td> <td></td> </tr> <tr> <td>倫理・関係構築</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>看護実践</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>協同・課題解決</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>探究・成長</td> <td>○</td> </tr> </table>		人間理解		倫理・関係構築	○	看護実践	○	協同・課題解決	○	探究・成長	○
人間理解												
倫理・関係構築	○											
看護実践	○											
協同・課題解決	○											
探究・成長	○											
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等) 第1回 臨床心理学とその歴史 第2回 心理アセスメント①: 知能検査 第3回 心理アセスメント②: 性格検査 第4回 心理療法①: 心の構造 第5回 心理療法②: 援助技法 第6回 心理療法③: 認知行動療法 第7回 心理療法④: 表現療法 ※サインペン(黒)、クレヨンが必要です。 第8回 看護と臨床心理学 第9回 臨床心理学的技法と演習① 第10回 臨床心理学的技法と演習②												
受講上の注意 1. 毎回の授業の終盤に、その回の印象に残ったことや感想を書いていただきます。 2. 授業終了後には、わからなかったところや、興味を持ったことなどを各自で調べるなどして、知識を深め、積極的に学ぶ姿勢で臨んでください。	評価方法 1. 出席…16点 2. レポート…34点 3. 筆記試験…50点											
使用するテキスト 参考文献 伊藤良子編著、いちばんはじめに読む心理学の本① 臨床心理学-全体的存在としての人間を理解する-ミネルヴァ書房、2009年												

科目No. 38		配当時期 3年次前期		担当者	
科目名 健康支援と社会保障制度 保健医療福祉行政論Ⅱ		単位数 1単位		ほり ゆうすけ 堀 祐輔	
時間割表記名 保健医療福祉行政論Ⅱ		時間数 20時間(10回)			
科目のねらい 地域保健の体系を理解し、保健所と保健福祉センターの役割と機能を説明できる				DPとの関連	
授業目標 1. 地域保健に関する公的機関を述べることができる 2. 保健所と保健センターの役割を理解する 3. 演習を通し多職種との連携を考慮することができる				人間理解	
				倫理・関係構築	○
				看護実践	
				協同・課題解決	○
				探究・成長	○
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)					
回数	学習内容	学習成果		備考	
1回	都道府県と市町村の役割	保健所と保健センターの機能と役割、業務について述べるができる			
2回		都道府県型保健所と市町村保健センター、政令市保健所について調べる			
3回		市町村保健センターの業務の実際を調べることができる			
4回	関係機関との連携	地域保健と職域保健の根拠法、対象、目的を理解する			
5回		地域・職域連携で取り組まれている課題について調べることができる			
6回		地域保健と学校保健との連携の意味を理解する			
7回	NPO/ボランティアとの協働	地域にあるNPOを調べ発表する			
8回		地域で活躍するボランティアについて調べ発表する			
9回	保健医療福祉行政の果たす役割について①	保健医療福祉行政の果たす役割についてグループディスカッション			
10回	保健医療福祉行政の果たす役割について②	保健医療福祉行政の果たす役割について考えをまとめレポートする			
受講上の注意				評価方法 授業への参加、演習のとりくみ 課題レポート 学科試験	
使用するテキスト 標準保健師講座、別巻1、保健医療福祉行政論、医学書院					

科目No. 43 科目名 健康現象の疫学と統計 疫学Ⅱ 時間割表記名 疫学Ⅱ		配当時期 3年次全期 単位数 1単位 時間数 20時間(10回)	担当者 おだに きよこ 小谷 清子																																												
科目のねらい 疫学調査結果を読み、集団の健康状態を把握する力を習得する 授業目標 1. 疫学調査結果を読む 2. 疫学調査から明らかになったことをまとめて発表する 3. 疫学研究の課題と限界を理解する		DPとの関連 <table border="1"> <tr> <td>人間理解</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>倫理・関係構築</td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護実践</td> <td></td> </tr> <tr> <td>協同・課題解決</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>探究・成長</td> <td>○</td> </tr> </table>		人間理解	○	倫理・関係構築		看護実践		協同・課題解決	○	探究・成長	○																																		
人間理解	○																																														
倫理・関係構築																																															
看護実践																																															
協同・課題解決	○																																														
探究・成長	○																																														
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等) <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>学習内容</th> <th>学習成果</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回</td> <td>現在行われている疾病登録</td> <td>がん登録、循環器登録、感染症の登録について理解する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>主な疾患の疫学①</td> <td>主要疾患とその動向について理解する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>主な疾患の疫学②</td> <td>がん・循環器疾患の危険因子と予防について理解する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>情報の管理・活用 基幹統計</td> <td>情報の管理・活用について理解する 基幹統計について説明できる</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>疫学の論文・調査結果を読む①</td> <td>疾病の予防や健康問題の解決につながる疫学研究の成果を学ぶ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6回</td> <td>疫学の論文・調査結果を読む②</td> <td>疾病の予防や健康問題の解決につながる疫学研究の成果を学ぶ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7回</td> <td>疫学の論文・調査結果を読んでわかったこと、疑問点をまとめる①</td> <td>疾病の予防や健康問題の解決につながる疫学研究の成果を学ぶ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>疫学の論文・調査結果を読んでわかったこと、疑問点をまとめる②</td> <td>疾病の予防や健康問題の解決につながる疫学研究の成果を学ぶ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9回</td> <td>報告会① 疫学調査研究の課題と限界</td> <td>ディスカッションで学びを共有し深める</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10回</td> <td>報告会② 疫学調査研究の課題と限界</td> <td>ディスカッションで学びを共有し深める</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				回数	学習内容	学習成果	備考	1回	現在行われている疾病登録	がん登録、循環器登録、感染症の登録について理解する		2回	主な疾患の疫学①	主要疾患とその動向について理解する		3回	主な疾患の疫学②	がん・循環器疾患の危険因子と予防について理解する		4回	情報の管理・活用 基幹統計	情報の管理・活用について理解する 基幹統計について説明できる		5回	疫学の論文・調査結果を読む①	疾病の予防や健康問題の解決につながる疫学研究の成果を学ぶ		6回	疫学の論文・調査結果を読む②	疾病の予防や健康問題の解決につながる疫学研究の成果を学ぶ		7回	疫学の論文・調査結果を読んでわかったこと、疑問点をまとめる①	疾病の予防や健康問題の解決につながる疫学研究の成果を学ぶ		8回	疫学の論文・調査結果を読んでわかったこと、疑問点をまとめる②	疾病の予防や健康問題の解決につながる疫学研究の成果を学ぶ		9回	報告会① 疫学調査研究の課題と限界	ディスカッションで学びを共有し深める		10回	報告会② 疫学調査研究の課題と限界	ディスカッションで学びを共有し深める	
回数	学習内容	学習成果	備考																																												
1回	現在行われている疾病登録	がん登録、循環器登録、感染症の登録について理解する																																													
2回	主な疾患の疫学①	主要疾患とその動向について理解する																																													
3回	主な疾患の疫学②	がん・循環器疾患の危険因子と予防について理解する																																													
4回	情報の管理・活用 基幹統計	情報の管理・活用について理解する 基幹統計について説明できる																																													
5回	疫学の論文・調査結果を読む①	疾病の予防や健康問題の解決につながる疫学研究の成果を学ぶ																																													
6回	疫学の論文・調査結果を読む②	疾病の予防や健康問題の解決につながる疫学研究の成果を学ぶ																																													
7回	疫学の論文・調査結果を読んでわかったこと、疑問点をまとめる①	疾病の予防や健康問題の解決につながる疫学研究の成果を学ぶ																																													
8回	疫学の論文・調査結果を読んでわかったこと、疑問点をまとめる②	疾病の予防や健康問題の解決につながる疫学研究の成果を学ぶ																																													
9回	報告会① 疫学調査研究の課題と限界	ディスカッションで学びを共有し深める																																													
10回	報告会② 疫学調査研究の課題と限界	ディスカッションで学びを共有し深める																																													
受講上の注意 疫学Ⅰの講義内容について、各自よく復習しておくこと。		評価方法 レポート課題 授業への参加、課題のとり組み等																																													
使用するテキスト 標準保健師講座 別巻2 疫学・保健統計学(医学書院)																																															
参考文献																																															

科目No. 57	配当時期 3年次全期	担当者
科目名 地域・在宅看護論	単位数 1単位	上山 みゆき やまもと かおり
時間割表記名 地域・在宅看護活動論Ⅱ	時間数 30時間(15回)	うすい れいか 臼井 玲華

科目のねらい 在宅看護に特徴的な状態や状況に応じたアセスメントの視点、在宅看護の展開と多職種連携・協働をふまえた在宅看護過程の特徴を学ぶ。 授業目標 健康に問題を抱えながら地域で生活する対象者に応じた在宅看護の視点、特徴、方法を理解し、在宅看護の実際を学ぶ。	DPとの関連	
	人間理解	
	倫理・関係構築	○
	看護実践	○
	協同・課題解決	○
	探究・成長	

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)

回数	学習内容	学習成果	備考
1回目 2回目	在宅看護過程の全体像と構成要素	在宅看護過程の全体像と展開の特徴をふまえたアセスメントの視点、評価の視点が理解できる	講義
3回目 4回目	認知症のある療養者とその家族の看護	認知症のある対象を理解し、状況、状態に応じたアセスメントの視点と在宅看護の援助方法を考える	講義 GW
5回目 6回目	生活習慣病にある療養者とその家族の生活支援 —糖尿病のある事例を中心に—	在宅療養継続に必要な自己管理支援が理解できる	講義 GW
6回目	在宅難病療養者とその家族への在宅看護	難病のある療養者の社会資源の活用状況をふまえ、セルフケア支援について理解する	講義 GW
7回目	精神障がいのある在宅療養者とその家族への生活支援	事例を通して治療継続、介護上の問題、社会資源の必要性や意義を考え、看護の役割について理解する	講義
8回目	退院支援における訪問看護師の役割と多職種との連携の実際	在宅看護の視点から病院と在宅の移行支援について考える。 多職種との連携と協働の意義をふまえて対象に必要な自立支援について理解を深める *外部講師	講義 GW
9回目 10回目	在宅看護におけるリスクマネジメント	在宅療養に潜むリスクについて考え、必要な在宅看護の展開について理解を深める	講義 GW
11回目 12回目	事例展開	事例を通して、訪問看護の特徴をふまえた看護展開の理解を深める	演習
13回目 14回目	事例展開	事例を通して、訪問看護の特徴をふまえた看護展開の理解を深める	演習
15回目	まとめ		講義

受講上の注意 概論・活動論Ⅰの学習資料、内容を復習しておいてください	評価方法
	課題レポート 40% 筆記試験 50% 提出物 10%

使用するテキスト
ナーシング・グラフィカ在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 ナーシング・グラフィカ在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版

科目No. 59	配当時期	担当者
科目名 健康状態別看護 死と看護 時間割表記名 死と看護	3年前期 単位数 1単位 時間数 20時間(10回)	山口 さゆり

科目のねらい 自らの死生観と人生のどの時期にも起こり得る死の意味を理解し、その人らしい生を全うできるよう終末期にある対象の看護を実践する能力を培う。	DPとの関連
授業目標	
1. 終末期を生きる人の病状、苦痛や苦悩、生きる価値や希望に対する理解を深めることができる	
2. 緩和ケアにおける倫理的問題が理解できる	
3. 死に向かう過程や悲嘆について理解し、死を前にした対象には、どのような特徴やニーズがあるかを理解する	
4. 終末期を生きる人の家族の苦痛や苦悩、希望の理解を深めグリーフケアとそのサポートが理解できる	

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)
レポート課題①：自分自身の死の捉え方について

回数	学習内容	学習成果	備考
1回	科目ガイダンス 死について考えること 終末期・緩和ケアの定義	終末期とは何か、自分自身が死をどのようにとらえているかを考え、死生観を考える一歩とする (レポート課題②：現在の医療・社会の状況から、終末期医療の今後がどのようになっていくのか)	事前レポート 講義 講義後レポート
2回	死の文化、死とは何か 生命活動とは、死の三徴候と脳死 療養の場	私たちは死をどのように取られているか、その現状と背景を理解する	講義
3回	倫理的問題と意思決定支援 ACP、エンドオブライフディスカッション	終末期における倫理的な問題が理解できる 意思決定支援の方法が理解できる	講義 症例検討 グループ ディスカッション
4回	全人的な痛み(トータルペイン) 4つの痛み	4つの痛みを構成する要素が理解できる 終末期医療における看護師の関りが理解できる	講義
5回	ライフステージと死 小児、AYA世代、壮年期、中年期、老年期	人生のそれぞれのステージとその家族のニーズやケアが理解できる 担当する症状マネジメントの決定	講義 症例検討 グループ ディスカッション
6回	症状マネジメント ①疼痛 ②倦怠感 ③呼吸困難感、咳嗽 ④悪心・嘔吐、食欲不振 ⑤便秘、下痢 ⑥浮腫、悪液質 ⑦不安、抑うつ	終末期の症状とその機序、ケアが理解できる (グループまとめ④：症状の定義、原因、発生メカニズム、マネジメント、薬物療法・非薬物療法を含む)	講義 グループ ディスカッション
7回			講義 グループ ディスカッション
8回	家族へのケア 死別、悲嘆、グリーフケア	家族のニーズを考え、そのサポートを理解する	講義 症例検討 グループ ディスカッション
9回	緩和ケアの実際 がん看護専門看護師との交流	現在の緩和医療の現状を理解し、ここまでの学習がどのように現場で活かされているのかを述べるができる (レポート課題③：よい看取りとは何か)	講義 講堂又は大会議室
10回	死生観について	自己の死生観について、グループでディスカッションできる (レポート課題④：私の死生観)	講義 グループ ディスカッション

受講上の注意 グループでの話し合いの時間を多くとっています。自分の意見を述べるとともに、他者の意見も聴き、ディスカッションする力を養います。	評価方法 授業の出席10点、参加・協力10点 課題レポート40点、 筆記試験40点
--	---

使用するテキスト
鈴木志津枝、内布敦子編、緩和ターミナルケア看護論、NOUVELLE HIROKAWA
参考文献：武田文和、的場元弘、トワイロス先生の緩和ケア、医学書院
田村恵子編、終末期看護 エンドオブライフケア、メヂカルフレンド社

科目No. 61	配当時期	担当者
科目名 健康状態別看護 災害看護と救命救急	3年次前期	阿形 奈津子
時間割表記名 災害看護と救命救急	単位数 1単位	久保田 有美子
	時間数 20時間(10回)	

科目のねらい 災害医療や災害看護の理解を深め、生命の危機的状況にある人への基礎的な看護を学ぶ 授業目標 災害の概念、災害の時期に応じた看護の役割と機能を理解する	DPとの関連	
	人間理解	
	倫理・関係構築	○
	看護実践	○
	協同・課題解決	○
	探究・成長	○

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)

回数	学習内容	学習成果	備考
1回	科目ガイダンス 近年の日本・世界の主な災害 災害看護の定義と倫理	近年の災害の発生状況と救護活動の実際を理解し、災害時に求められる看護と倫理について考える	講義
2回	災害の種類と健康被害 災害の種類と義肢・疾病の特徴 災害関連死	近年の災害の発生状況と分類、救護活動の実際を理解し、災害時に求められる看護と倫理について考える	講義
3回	災害時の支援体制 情報収集と伝達、災害医療体制、連携と協働 ※東日本大震災の体験を通して(久保田有美子)	災害時の体系的な支援体制と連携協働を理解する	講義
4回	災害医療活動の特徴 災害サイクル、体系的対応の基本原則 災害時の3T(triage, treatment, transportation)	災害サイクルと災害初期の対応、3Tを理解する	講義
5回	災害医療活動の特徴 災害時の3Tの実際; トリアージ 応急処置と治療、搬送・移送、感染症対策	災害時の3Tを理解し、実際にトリアージを体験する 応急処置の目的・順序と限界を理解する	演習
6回	災害初期から中期における支援活動 超急性期・急性期の看護活動、CSCA 避難者に対するの看護活動	災害急性期の人命救助と初動体制の確立のためのCSCAを理解し、初期対応の実際を体験する	演習
7回	被災者と支援者の心理の理解と援助(1) 災害とストレス、災害遺族の対象喪失と悲嘆 支援者のストレス	災害がもたらすストレスを理解し、被災者の心理的ニーズをふまえた看護を考えることができる	講義 演習
8回	被災者と支援者の心理の理解と援助(2) 被災者・災害遺族・支援者への具体的な援助	被災者・災害遺族・支援者の心理を理解し、ニーズをふまえた看護を考えることができる	講義 演習
9回	救急医療と災害医療 救急医療と災害医療の類似点と違い 日本の救急医療体制、救急看護の役割の実際	救急医療の定義と特徴、災害医療との類似点と違いを理解し、救急看護の役割を考える	講義 演習
10回	救護所トリアージ(二次トリアージ)の実際 アセスメントと応急処置 全体のまとめ	事例(30事例)の二次トリアージと応急処置についてグループでワークし実際に学ぶ	演習

受講上の注意 3年次の災害看護では、主に災害急性期の看護を学びます。公衆衛生領域との関連で、4年次に防災・中期・復興期の看護を学びます。 演習を取り入れています。トレーニングウェア等、動きやすい服装で主体的に参加してください。	評価方法 出席点・授業への参加 筆記テスト
--	------------------------------------

使用するテキスト 新体系看護学全書 看護の統合と実践② 災害看護学、メジカルフレンド社 公衆衛生がみえる、MEDIC MEDIA

科目No. 68		配当時期 3年次前期		担当者	
科目名 公衆衛生看護学 公衆衛生看護展開論Ⅲ		単位数 1単位		田淵 眞由美	
時間割表記名 公衆衛生看護展開論Ⅲ		時間数 20時間(10回)			
科目のねらい 既存の資料から情報収集し地域診断に活用する技術を習得する				DPとの関連	
授業目標 1. 保健統計など既存の資料から必要な情報を選択し収集する 2. 不足情報の入手手段を検討する 3. 健康課題を抽出し活動計画を立案する方法を学ぶ				人間理解	
				倫理・関係構築	○
				看護実践	○
				協同・課題解決	○
				探究・成長	
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)					
	学習内容		学習成果		備考
1回～ 4回	地域診断 保健統計を読む		担当地域の人口動態・静態統計その他の保健衛生統計から必要な情報を収集する		
5回～ 8回	地域診断 健康課題の抽出と活動計画		情報を整理分析し、健康課題を抽出する 健康課題から活動計画を立案する		
9回～ 10回	地域診断 報告		地域診断演習の経過をまとめ報告する		
受講上の注意				評価方法 課題提出状況	
使用するテキスト ・標準保健師講座① 公衆衛生看護学概論 医学書院 ・国民衛生の動向 厚生労働統計協会					

科目No. 70		配当時期		担当者	
科目名 公衆衛生看護学 対象別保健活動論Ⅱ		3年次前期		松本 留美	
時間割表記名 対象別保健活動論Ⅱ		単位数 2単位			
		時間数 40時間(20回)			
科目のねらい 対象特性と地域生活を基盤としたさまざまな保健活動について理解する。				DPとの関連	
授業目標 1 母子(親子)保健の理念、動向、施策、保健活動を理解する 2 家庭訪問、健康相談、保健指導の技術を学び保健師活動における実践能力を身につける				人間理解	○
				倫理・関係構築	○
				看護実践	○
				協同・課題解決	○
				探究・成長	
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)					
回数	学習内容	学習成果		備考	
1・2回	母子(親子)保健の動向 母子(親子)保健施策	母子保健活動の対象、視点を知り、理念(目指すもの)を理解できる 歴史の変遷から現在の母子保健施策を理解できる			
3・4回	児童虐待に対する母子(親子)保健活動	児童虐待とその現状を知る(19次報告)母子保健活動における児童虐待の予防、早期発見、支援について知る			
5・6回 7・8回	新生児訪問	母子健康手帳について知り、活用できる 妊産婦訪問、母親(両親)学級について理解できる 新生児訪問の意義・目的・実施内容を確認できる			
9・10回	家庭訪問の実施(新生児訪問)	家庭訪問演習 (新生児・育児者の観察・計測・保健指導)			
11・12回	乳児健康診査 幼児健康診査	乳幼児期の成長発達を確認し乳幼児健康診査の意義・目的・実施内容を理解できる			
13・14回	乳児健康診査の実際 幼児健康診査の実際	3~4か月児健康診査、8か月児健康診査、1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査、集団への健康教育			
15・16回	乳児健康診査の実際 幼児健康診査の実際 切れ目のない支援の実際	ロールプレイング(保健師の問診) 3~4か月児健康診査、8か月児健康診査、1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査			
17・18回	就学前の支援に繋ぐ5歳児健診	5歳児健康診査 (幼児・育児者の観察・計測・保健指導他)			
19・20回	健診後経過観察を必要とする親子への支援	健診後の支援方法について知る 発達障がい児とその家族の支援について知る			
受講上の注意 関心をもって積極的に学んでください 演習は、複数の教員で行います				評価方法 1. 筆記試験 2. 演習の参加状況 3. 小テスト、課題	
使用するテキスト 標準保健師講座②公衆衛生看護技術 医学書院 公衆衛生が見える メディックメディア 標準保健師講座③公衆衛生看護活動 医学書院 その他 母子健康手帳 国民衛生の動向 厚生労働統計協会					

科目No. 71	配当時期	担当者
科目名 公衆衛生看護学 対象別保健活動論Ⅲ	3年次前期	ながしま ちきと 永島 智里(1, 4~6回)
時間割表記名 対象別保健活動論Ⅲ	単位数 2単位	ひが かんた 比嘉 寛太(8~10回)
	時間数 40時間(20回)	安藤 えつ子 (2, 3, 7, 11~20回)

科目のねらい 障害・精神保健・難病・歯科保健などの健康課題に対応した保健活動について学ぶ 授業目標 1 対象の動向を踏まえ、制度の在り方を考えることができる 2 家庭訪問や保健指導を通して、具体的な保健活動の実際を理解できる	DPとの関連	
	人間理解	○
	倫理・関係構築	○
	看護実践	○
	協同・課題解決	○
	探究・成長	○

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)

回数	学習内容	学習成果	備考
1回	難病保健の動向と保健活動	難病保健の理念と変遷、難病保健施策について理解する	
2回	感染症の動向	感染症の歴史、現在の動向を理解する	
3回	感染症における保健活動	感染症における保健活動を理解できる	
4回	障がい者(児)保健福祉の動向	障がい者保健の理念、目的について理解を深める 障がい者保健施策の変遷と歴史的背景を理解する	
5回	障がい者(児)の生活特性と自立支援	障がい者の生活特性について理解する 障がい者に対する保健師活動について理解する	
6回	視覚、聴覚障がい者(児)の生活と保健指導	障がい者保健の歴史、現状について理解する 障がい者に対する保健師活動について理解する	
7回	特別支援教育	特別支援学校・学級、通級指導教員について学ぶ	
8回	精神保健福祉活動の動向	精神保健活動の理念と変遷、精神保健施策について理解する	
9、10回	精神保健活動の実際	精神相談全般、ケースワークについて	
11、12回	歯科保健	歯科保健における保健活動を理解できる	
13~18回	健康教育演習	児童館で歯科保健をテーマに健康教育を実施する	
19、20回	演習	健康教育演習の振り返りができる	

受講上の注意	評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・講義資料は随時配布 ・関心を持って受け、積極的な授業参加を期待しています 	1 筆記試験 2 出席・授業態度 3 課題

使用するテキスト
 標準保健師講座②公衆衛生看護技術 医学書院
 標準保健師講座③対象別公衆衛生看護活動 医学書院
 公衆衛生がみえる メディックメディア

科目No. 72		配当時期 3年次後期	担当者 さわだ のりこ
科目名 公衆衛生看護学 対象別保健活動論Ⅳ	単位数 1単位	産業保健 (工場見学) 澤田 典子(6回) 加藤 舞 (2回)	
時間割表記名 対象別保健活動論Ⅳ 産業保健 対象別保健活動論Ⅳ 学校保健	時間数 30時間(15回)	学校保健 外部講師 (7回)	
事前学習内容 産業保健 労働衛生関係法規、成人期の看護について復習しておいてください。 学校保健 現在の社会情勢や制度について関心を持ち、学校保健との関わりや現代の教育・健康問題について考える習慣を持って臨んで下さい。		DPとの関連	
		人間理解	○
		倫理・関係構築	○
		看護実践	
		協同・課題解決	○
		探究・成長	
科目全体のねらい・授業目標			
産業保健 産業保健の動向・制度、システムと健康課題を理解し、労働衛生の基本と産業保健活動の実際を学ぶ。			
学校保健 地域の中の学校という集団の中で、学校保健の目的や果たすべき役割を学ぶ。 養護教諭は学校保健の中心的役割を担うことを理解し、これからの課題について考える。			
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
産業保健 8回			
回	学習内容	方法	学習成果
1	産業保健の動向	講義	・産業保健の理念と目的を理解する ・産業看護職の役割・機能を理解する
2	産業保健の制度とシステム	講義	・労働安全衛生に関する主要な法律を理解する ・産業保健を担う職種・組織について理解する
3	産業保健における健康課題 (1)	講義	・労働衛生の現状を理解する
4	産業保健における健康課題 (2)	講義	・労働災害・業務上疾病について理解する ・職業性疾患・作業関連疾患について理解する
5	産業保健における健康課題 (3)	講義	・労働安全衛生の管理体制について理解する ・産業保健・看護活動の実際を理解する
6	産業保健における健康課題 (4)	講義	・職場におけるメンタルヘルスの現状と対策について理解する ・過重労働対策について理解する
7	工場見学	講義	・産業保健活動の実際を学ぶ
8		見学	
学校保健 7回			
回	学習内容	方法	学習成果
1	学校保健・学校看護の基本	講義	学校保健・学校看護の歴史を知り、現在の学校保健の制度とシステムを理解する
2	学校保健における健康課題への対策	講義	幼児・児童および生徒の特徴をあげ、現代の健康課題への対策と支援を学ぶ
3	学校保健活動の展開と養護教諭の職務	講義	養護教諭の職務の概要と保健室の機能・保健室経営計画を学ぶ
4	保健管理	講義	健康診断・健康観察・感染症予防と対策・学校管理下の事故の防止と救急処置・環境衛生について学ぶ
5	保健教育	講義	保健学習・保健指導について学ぶ
6	健康相談活動、特別支援教育	講義	心や対人関係上の課題を抱えた児童・生徒への対応や特別支援教育について学ぶ
7	学校保健組織活動	講義	学校保健組織活動・地域の関係機関との連携について学ぶ
受講上の注意 ・養護教諭の「教育」の果たす役割について常に考えながら受講して下さい。			評価方法 筆記試験 産業保健50点,学校保健50点
使用するテキスト	標準保健師講座③ 対象別公衆衛生看護活動 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会		
参考文献	新看護概説 少年写真新聞社 労働衛生のしおり 中央労働災害防止協会 産業保健・産業看護 日本看護協会出版 河野啓子		

科目No. 77		配当時期	担当者
科目名	成人看護学 成人看護学方法論Ⅱ	3年次前期 単位数 1単位	嘉田 真希 1～3、5～15回目(7・8演習補助) 大津 惇也 3回目
時間割表記名	成人看護学方法論Ⅱ	時間数 30時間(15回)	外部講師:7・8回(講義・演習)
事前学習内容		DPとの関連	
成人看護学方法論Ⅰ・Ⅲの看護計画と関連図に、必要時、追加修正しておいて下さい。本科目でさらに学びを積み重ねながら修正していきます。		人間理解	○
		倫理・関係構築	○
		看護実践	○
		共同・課題解決	○
		探究・成長	○
科目全体のねらい・授業目標			
ねらい：周手術期にある対象と家族を理解し、周手術期の経時的变化を捉えながら必要な看護を理解できる。 授業目標：①急激な生体侵襲により急性期にある患者とその家族について理解できる。 ②周手術期の看護について理解できる。 ③急性期から術後の患者に対する看護技術が実施できる			
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
回数	学習目標	方法	学習内容
1	手術療法と周術期看護の役割について理解できる 周術期看護の基盤となる理論と看護展開が理解できる 術前の患者・家族が理解できる	講義	手術療法と周術期看護の役割、手術療法の目的と種類 手術侵襲と生体反応、周術期看護の特徴と理論 術前の患者・家族への看護、手術に向けた準備
2	手術における麻酔について理解できる	講義 演習	全身麻酔、局所麻酔の種類と合併症と看護 創傷治癒過程と看護、ドレーンの種類と管理
3	術中の患者・家族の看護が理解できる	講義	手術室の物的・人的環境、手術室看護師の役割 医療安全、医療機器類・留置物の種類と管理
4	術後の患者・家族の看護が理解できる①	講義	機能低下からの早期回復と術後合併症に対する看護①
5	術後の患者・家族の看護が理解できる②	講義	機能低下からの早期回復と術後合併症に対する看護② (脳腫瘍、食道がん、胃がん、大腸がん、膵臓がん術後の看護)
6	術後の患者・家族の看護が理解できる③ 内視鏡下手術の看護が理解できる	講義	機能低下からの早期回復と術後合併症に対する看護③ 内視鏡下手術の概要、術後合併症
7・8	術直後の患者の看護が理解できる	講義 演習	手術室への送迎準備、術直後の観察と合併症予防、創部・ドレーン管理、モニター管理、弾性ストッキング着用
9・10	手術を受ける患者の一連の流れが理解できる 急性期から術後の患者への看護技術が実践できる	講義 演習	患者の急変時の対応、BLS、搬送、ALS、移送、装着物・留置物のある術後患者の全身管理
11	事例における術後の看護展開が理解できる①	講義	アセスメント
12	事例における術後の看護展開が理解できる②	講義	関連図、全体像
13	事例における術後の看護展開が理解できる③	講義	経過記録の作成 看護計画の作成①
14	事例における術後の看護展開が理解できる④	講義	看護計画の作成②
15	事例における術後の看護展開が理解できる⑤	講義 演習	看護計画の実施・記載、まとめの記載方法
受講上の注意			評価方法
①課題の標準看護計画は、臨床で活用できるように修正していく土台となる計画作成です。 ②課題のレポートは、麻酔の種類、合併症と看護について、レポート用紙2枚以上です。 ③9・10回目は学外での演習です。身だしなみを整え、現地集合です。			課題提出 50点 演習 30点 筆記 20点
使用するテキスト			
成人看護学 周手術期看護論 ニューヴェルヒロカワ 系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 臨床外科看護総論 医学書院			
参考文献			
新体系看護学全書 経過別成人看護学② 周術期看護 メヂカルフレンド社 系統看護学講座 専門 脳・神経 成人看護学7 医学書院			

科目No. 79	配当時期	担当者
科目名	3年次前期	森川 美奈子(1・6・7・14回)
成人看護学	単位数	森 広美(10～13回)
成人看護学方法論Ⅳ	1単位	嘉田 真希(15回)
時間割表記名	時間数	外部講師
成人看護学方法論Ⅳ	30時間(15回)	2・3回:
		4・5回: 龍野 和恵
		8・9回: 田野邊 悦子

科目のねらい	DPとの関連	
セルフコントロールが必要な対象の看護を学ぶ	人間理解	○
授業目標	倫理・関係構築	○
1. セルフマネジメントの概念が理解できる	看護実践	○
2. セルフマネジメントに有用な看護の方法が理解できる	協同・課題解決	○
3. 事例を通して、セルフマネジメントの支援ができる	探究・成長	



授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)

回数	学習内容	学習成果	備考
1回	セルフマネジメントの概念・構成要素・諸理論 ・エンパワメントモデル、自己効力理論 ・セルフマネジメントに必要とされる看護師の能力と役割	・セルフマネジメントの概念を理解し、セルフマネジメントの支援の概要がわかる ・乳がん術後患者の退院後のセルフマネジメント支援が理解できる	講義
2・3回	糖尿病と共に生きる対象のセルフマネジメントの支援 ・病態生理、検査、治療、看護	・糖尿病と共に生きるために必要な知識、技術が理解できる	講義
4・5回	慢性腎不全と共に生きる対象のセルフマネジメントの支援 ・病態生理、検査、治療、看護	・慢性腎不全と共に生きるために必要な知識、技術が理解できる	講義
6・7回	慢性肝炎・肝硬変と共に生きる対象のセルフマネジメントの支援 ・病態生理、検査、治療、看護	・慢性肝炎、肝硬変と共に生きるために必要な知識、技術が理解できる	講義
8・9回	大腸癌(ストーマ造設)と共に生きる対象のセルフマネジメントの支援 ・病態生理、検査、治療、看護	・大腸癌(ストーマ造設)と共に生きるために必要な知識、技術が理解できる	講義・演習
10・11回	喉頭全摘出術後、音声機能が喪失し、術後放射線療法に対するセルフケアへの援助 ・病態生理、治療、看護	・放射線療法に対するセルフケアへの援助が理解できる ・音声機能障害のある対象に対するセルフケアへの援助が理解できる	講義・演習
12・13回	生殖器・泌尿器科的治療を受ける対象のセルフマネジメント支援 ・排尿障害に対する支援	・排尿障害の合併症に対するセルフケアへの援助が理解できる ・自己導尿の手技が理解できる	講義・演習
14・15回	虚血性心疾患・心臓弁膜症術後、消化器疾患の対象のセルフマネジメント支援 ・事例に対する指導場目の作成・発表	・循環機能障害のある対象のセルフケアへの援助が理解できる	講義・演習

受講上の注意	評価方法
慢性疾患と共に生きる対象は、生活の中で様々な困難と向き合いながらセルフマネジメントできる能力が必要になります。個々の生活に合わせた指導の在り方について考えながら学習を深めましょう。	課題：50点 試験：50点

使用するテキスト
①ナーシンググラフィカ 成人看護学③ セルフマネジメント メディカ出版 ⑤系統看護学講座 成人看護学[7] 腎・泌尿器 医学書院 ②系統看護学講座 成人看護学[3] 循環器 医学書院 ⑥系統看護学講座 成人看護学[11] アレルギー 膠原病 感染症 医学書院 ③系統看護学講座 成人看護学[5] 消化器 ④系統看護学講座 成人看護学[6] 内分泌・代謝 医学書院

科目No. 86		配当時期 3年次前期	担当者
科目名 小児看護学 小児看護学方法論Ⅲ	単位数 1単位		嘉田 真希(6回目)
時間割表記名 小児看護学方法論Ⅲ	時間数 30時間(15回)		大津惇也 (1~5回.. 7~15回)
科目のねらい 対象の健康問題の解決に向けて必要な知識・技術・態度について学ぶ		DPとの関連	
授業目標 1.小児看護技術の必要性と小児特有の基礎的な看護技術について習得する 2.小児の看護過程の特徴が理解できる 3.対象の特性を踏まえて情報を整理・アセスメントができる 4.対象の健康問題を明確にし、解決に向けての援助方法が理解できる 5.自己の援助計画にそって実施・評価できる		人間理解	○
		倫理・関係構築	○
		看護実践	○
		協同・課題解決	○
		看護実践	○
		探究・成長	○
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
回数	学習内容	学習成果	備考
1回	小児の看護過程の特徴 小児の情報整理・アセスメントの視点 小児で良く活用される診断名	1) 小児の看護過程の特徴が理解できる 2) 小児の看護診断の情報収集の視点が理解できる	講義
2・3回	事例紹介 事例の理解に必要な基礎知識の確認	事例のアセスメントに必要な基礎知識が理解できる	講義
4回	情報整理 情報のアセスメント	事例の情報整理・アセスメントができる	講義
5回	関連図の記載方法 看護援助の確定	1) 事例の関連図を作成し、全体像を把握できる 2) 事例の確定診断ができる	講義
6回	小児看護技術の特徴① 安全・輸液管理	輸液管理・輸液計算ができる	講義・演習
7回	小児看護技術の特徴②	小児看護技術が理解できる(バイタルサインの測定、身体計測、採尿、ADL介助)	講義
8回	小児看護技術の特徴③	小児看護技術が理解できる(診察・検査介助、酸素管理、環境整備)	講義
9回	小児に必要な看護技術①	小児看護技術について演習を通して理解できる(バイタルサインの測定、身体計測、採尿)	演習
10回	小児に必要な看護技術②	小児看護技術について演習を通して理解できる(診察介助・酸素管理・輸液管理・環境整備)	演習
11回	小児に必要な看護技術③	小児看護技術が実施できる(バイタルサインの測定、身体計測、採尿、ADL介助)	技術試験
12回	小児に必要な看護技術④	小児看護技術が実施できる(診察介助、酸素管理、輸液管理、環境整備)	技術試験・筆記試験
13回	事例の援助計画の立案	事例の問題解決に必要な援助が理解で、計画立案できる	講義
14・15回	事例の援助計画に沿って実施	援助計画に沿って実施評価できる	講義・演習
受講上の注意 演習時はジャージで、実習室に入る身だしなみを整えて実習室に集合すること。 授業内に技術試験、筆記試験を含みます。		評価方法 課題：60点 技術試験：20点 筆記試験：20点	
使用するテキスト 系統別看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学〔1〕 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統別看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論 医学書院			

科目No. 89	担当時期	担当者
科目名 母性看護学 母性看護学方法論Ⅱ	3年次前期	外部講師(1~6回) 岡田瑞宝(7~15回)
時間割表記名 母性看護学方法論Ⅱ	単位数 1単位	
	時間数 30時間(15回)	


科目のねらい 既習の妊婦、産婦、褥婦および新生児の正常経過を理解し、母子とその家族に対して必要な看護が展開できる基礎的能力を養う。方法論1で学んだ母性看護特有の技術(新生児のバイタルサイン測定、全身状態の観察、フィジカルアセスメント)について演習を通して学ぶ。 授業目標 母性看護における看護過程の特徴が理解できる 母子の特徴をふまえて、ウエルネスの視点でアセスメントし、情報の整理分類ができる 母子の特性を踏まえた援助方法が理解できる	DPとの関連	
	人間理解	
	倫理・関係構築	○
	看護実践	○
	協同・課題解決	○
	探究・成長	○

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)

回数	学習内容	学習成果	備考
1回	母性看護における看護過程の特徴	母性看護の対象に適したウエルネス視点のアセスメントの考え方が分かる	
2回	ウエルネス看護診断(マタニティ診断)とは	母子を1組でとらえ、情報の整理分類ができる。事例展開に必要な基礎知識が理解できる	
3回	妊娠期の情報整理	妊婦健康診査の情報から妊娠経過の情報の整理ができる	
4回	妊娠期のアセスメント	ウエルネスの視点で妊婦のアセスメントができる。胎児の健康状態、成長発達のアセスメントができる	
5回	分娩期の情報整理分類、アセスメント	正常経過の産婦の情報整理分類、アセスメントができる	
6回	分娩期の看護	正常経過の産婦の看護を考えることができる	
7回	産褥期・新生児期の情報整理①	母子1組でとらえ、情報の整理、分類ができる	
8回	産褥期・新生児期の情報整理②	母子2組でとらえ、情報の整理、分類ができる	
9回	褥婦・新生児のアセスメント①	ウエルネスの視点で褥婦、新生児のアセスメントができる	
10回	褥婦・新生児のアセスメント②	ウエルネスの視点で褥婦、新生児のアセスメントができる	
11回	褥婦、新生児の追加情報、アセスメント	産褥3日目、生後3日目の追加情報から情報を整理し、アセスメントができる	
12回	褥婦、新生児のウエルネス看護診断と看護計画①	正常経過の褥婦、新生児の看護計画の立案ができる	
13回	褥婦、新生児のウエルネス看護診断と看護計画②	正常経過の褥婦、新生児の看護計画の立案ができる	
14回	褥婦、新生児の看護の実施、評価	ロールプレイを通して母子への看護の実践ができる	
15回	成果発表会、まとめ	グループで成果発表ができる	

受講上の注意 解剖生理、病態生理など母性看護学概論で学んだ既有的知識を想起して、毎回の授業の復習をして、臨地実習につなげていきましょう。	評価方法 30% 筆記試験 70% レポート課題
--	---------------------------------------

使用するテキスト
 系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院 教材用母子健康手帳
 根拠と事故防止からみた母性看護技術 医学書院 マタニティ診断ガイドブック

科目No. 93		配当時期 3年次全期	担当者 いまほり 幸弘 今堀 幸弘 あだち はるひこ 足立 治彦 ゆあき のりゆき 湯浅 範之 みつおか ゆきこ 光岡 由紀子	
科目名	精神看護学 精神看護学方法論Ⅱ	単位数 1単位		
時間割表記名	精神看護学方法論Ⅱ	時間数 30時間(15回)		

事前学習内容 専門基礎分野「解剖生理学Ⅰ：生命・神経系」…神経系について 専門基礎分野「病態生理学」…精神病理について・ストレスの定義・ストレスマネジメントについて 専門基礎分野「臨床薬理」…中枢神経系に作用する薬物について 専門基礎分野「社会福祉」…障害者福祉について 健康状態別看護「薬物療法と看護」…薬物の自己管理能力が低下している対象の看護について 専門分野「精神看護学概論」…自己の心の健康について、精神保健福祉法(入院形態・行動制限)について 精神保健福祉に関わる法律について 専門分野「精神看護学方法論Ⅰ」…学習した各理論について	DPとの関連	
	人間理解	○
	倫理・関係構築	○
	看護実践	
	協同・課題解決	○
	探究・成長	

科目全体のねらい・授業目標

1. いろいろな精神症状について理解し、臨床の看護援助に必要な基本的態度や観察技術を学ぶ
2. 精神疾患に特有な症状をケアするための専門的知識を習得する
3. 精神障害者の社会参加のあり方や援助方法、求められる精神科病院の役割と機能を理解する

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)

担当	回数	学習内容	方法	学習成果	課題・小テストなど
足立	第1回	精神科看護の目的・役割・機能	講義	精神看護の臨床での実際についてイメージ化できる	
	第2回	精神症状、薬物療法	講義	主な精神症状と薬物療法について理解できる	課題 小テスト①
	第3回	統合失調症の急性期の看護	講義	統合失調症の急性期の看護について理解できる	
	第4回	統合失調症の慢性期の看護	講義	統合失調症の慢性期の看護について理解できる	
湯浅	第5回	気分障害の入院治療と看護	講義	気分障害の看護について理解できる	
今堀	第6回	長期入院患者の退院支援と地域連携	講義	長期入院患者の退院支援と地域連携についてわかる	
	第7回	地域で精神障害者を支えるサービス	講義	地域で精神障害者を支えるサービスについてわかる	
	第8回 第9回	長岡病院(長岡ハルカセンター)と関連施設の見学	施設 見学	精神科病院・関連施設の見学を通じて精神障害者の生活や治療の場が理解できる	小テスト②
湯浅	第10回	神経症性障害、ストレス関連障害、身体症状症、睡眠障害、適応障害とその看護	講義	神経症性障害、ストレス関連障害、身体症状症、睡眠障害、適応障害とその看護について理解できる	
	第11回	摂食障害・パーソナリティ障害とその看護	講義	摂食障害・パーソナリティ障害とその看護について理解できる	
	第12回	精神作用物質使用による精神および行動の障害とその看護	講義	アルコール・薬物依存とその看護について理解できる	
	第13回	てんかん・小児期の精神障害とその看護	講義	てんかん・小児期の精神障害とその看護について理解できる	
光岡	第14回	臨床現場におけるリエゾン精神看護活動	講義	リエゾン精神看護専門看護師の活動の実際についてわかる	
湯浅	第15回	精神科外来・救急・災害時の看護 精神看護学のまとめ	講義	精神科外来・救急・災害時の看護について理解できる	

受講上の注意 最善の看護を提供する上で最も基本的なことは、患者のいまそのときの状態を的確に把握することです。そのために、精神症状・精神疾患の理解、看護のポイントの把握が求められます。主体的に学習を進めていきましょう！！ 2回目の小テスト①は精神症状・薬物療法について、授業の最後に実施します。 6・7回目の講義時、施設見学のオリエンテーションと小テスト②の説明があります。	評価方法 筆記試験 75点 (今堀20点、足立15点・湯浅40点) 課題・出席・小テストほか 25点
--	--

使用するテキスト
 系統看護学講座 精神看護学(1)精神看護の基礎 / 精神看護学(2)精神看護の展開 医学書院

参考文献 講義の中で随時紹介します

科目No. 96	配当時期 3年次全期	担当者
科目名 看護の統合と実践 看護研究Ⅰ	単位数 1単位	おがた たくみ 緒方 巧(9回)
時間割表記名 看護研究Ⅰ	時間数 20時間(10回)	山口さゆり(1回)

科目のねらい 研究の基本的知識・態度を習得し、看護を多角的な視点から深く考察し、質の高い看護を追究する能力を養う 授業目標 1. 研究の基本的知識がわかる 2. 文献検討の実際を知り、批判的に読むことができる 3. 研究計画書を作成できる	DPとの関連	
	人間理解	
	倫理・関係構築	○
	看護実践	
	協同・課題解決	○
	探究・成長	○

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)

回数	学習内容	学習成果	備考
1	～研究って何?～ 看護研究の意義と目的 看護研究の倫理	看護研究の歴史と意義がわかる 看護研究の目的について考えることができる 看護研究における倫理について考えることができる	講義 演習
2	～さまざまな研究その①～ 量的研究の種類と研究方法	量的研究の特徴がわかる	講義
3	～さまざまな研究②～ 質的研究の種類と研究方法	質的研究の特徴がわかる	講義
4	看護研究発表会聴講	先輩の看護研究発表会を聴講して、看護研究について考えることができる	聴講
5	～文献を探そう!～ 文献検索の方法	文献検索の具体的方法が理解できる	演習
6	～論文の読み方～ 文献クリティークの方法	批判的思考で研究を見ることができる (文献クリティークができる)	講義 演習
7・8	～自分の中の研究疑問～ リサーチエスジョン	自己の看護実践から研究疑問を導き出すことができる	講義 演習
9・10	～自分で書いてみよう!～ 研究計画書の書き方 倫理審査申請書の書き方	研究計画書作成の必要性が理解できる 研究計画の目的を明らかにすることができる 倫理審査申請の意味と方法が分かる	講義 演習

受講上の注意 ① 提出物の期限を厳守すること ② 提出されたものはすべて評価対象物となるので、必ず学籍番号と氏名を記入する	評価方法 ①課題点
--	---------------------

使用するテキスト
 系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院